

台湾嘉南に於ける大灌漑工事状況 現代語訳



図.1

用水と言うのは灌漑、排水の施設を言うのである。

文化の潮流に遠ざかっていた台湾にも、この運河の施設は昔から行われ、比較的発達していた、しかしながら、本島西南部、台南州大半の地は、古来幾多の氾濫と、干ばつのため、幾度かの運河の施設もその度に烏有に帰したと言う。すこぶる苦悩の地である。本工事は実にその地への救済である。以下その工事を紹介する嘉南大用水池堰堤は、Semi-Hydraulic a Full System で築造せらるるが、盛土材料は 10 マイル(16km)離れた曾文溪から運ばれている。

図.1 は 2 1/2 cu.yd.Steam Shovel(蒸気シャベル)で 16 cu.yd.Air Dump Car に積み込みつつある状況



土砂運搬列車から材料が線路脇に投げ出されると、機関車に連結された spreader(スプレッター)が土砂を地均しを行う。こうして次の運搬列車が来る迄には綺麗に整地を行う。

事業の大意

台南州下の看天田(水利の無い天然の田圃)、蔗園(サトウキビ畑)その他の土地は、水利の便無く豪雨が突然来るときは直ちに氾濫のとなり、南国の太陽の強烈さが続けばたちまち枯れ上がる。

そうした極端な苦しみにある上述の地に灌漑排水の設備を施し、水稻、甘蔗その他の農作物の生産増収を図るためにこそ本計画が始まったのである。

そして灌漑に就いては、曾文溪及び濁水溪を水源とし曾文郡官田庄鳥山頂という所で、官佃溪を締め切って一大貯水池を築造し、曾文溪水をこれに引用し、一方鳥山嶺に隧道を穿ち曾文溪上流より溪水を導いて官佃流域の雨水と共に貯水し、必要に応じて流出給水する方法を執るのである。

濁水溪の方は斗六軍(くさかんむりに刺)桐新庄子という所で、同溪の護岸に同溪の護岸に取り入れ口を儲け水路によって溪水をそのまま田圃に引用する。

排水に就いては要所要所に排水路を掘削し、また在来の排水路の改修海岸の潮止め堤防の築造も行い、之により灌漑区域内の悪水排水に充分に備える物である。

本事業区域内に水利を行う土地は十五万甲の予定で毎年1/3づつ給水を行う計画である。

元々この地域には別個の水利施設の建設の望みが無いので、出来る限り広い地域に亘って等しく水利を行う方針の下に計画するものである。